

社会システム情報学特論

情報創造論

秋庭史典

本日の内容

1 芸術とコミュニケーション

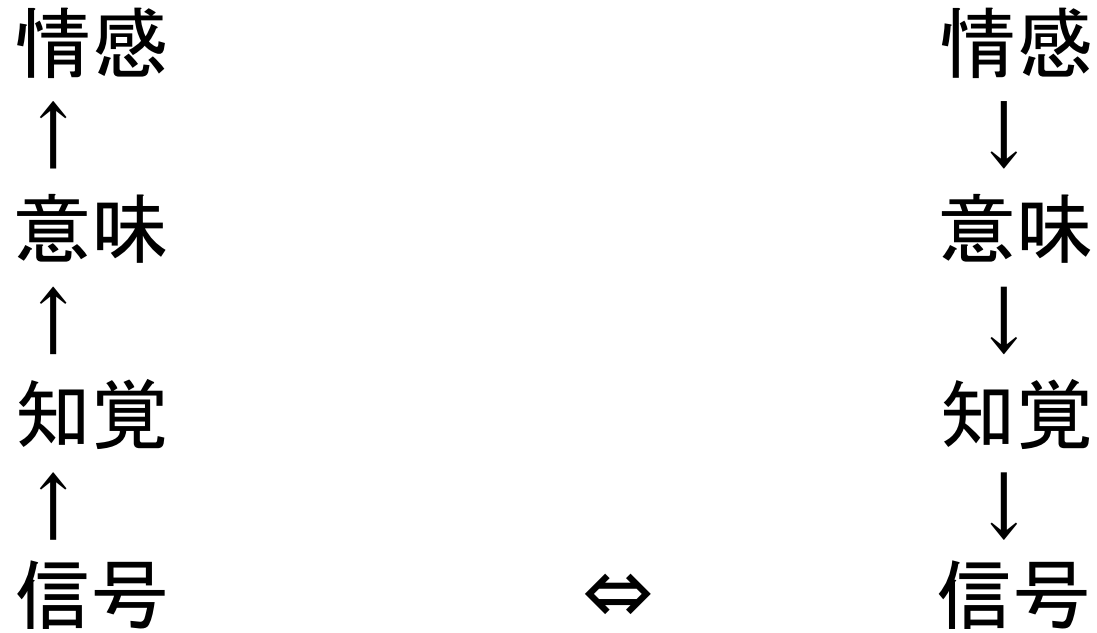
・・・石井健一郎『「情報」を学び直す』（NTT出版、2007年）
から

2 不確かさを減らすために

・・・なじみのものとなじみでないもの

3 課題

一般的コミュニケーションの階層構造



それぞれの背後に「背景知識」がある。
(石井 2007: p.106, 113)

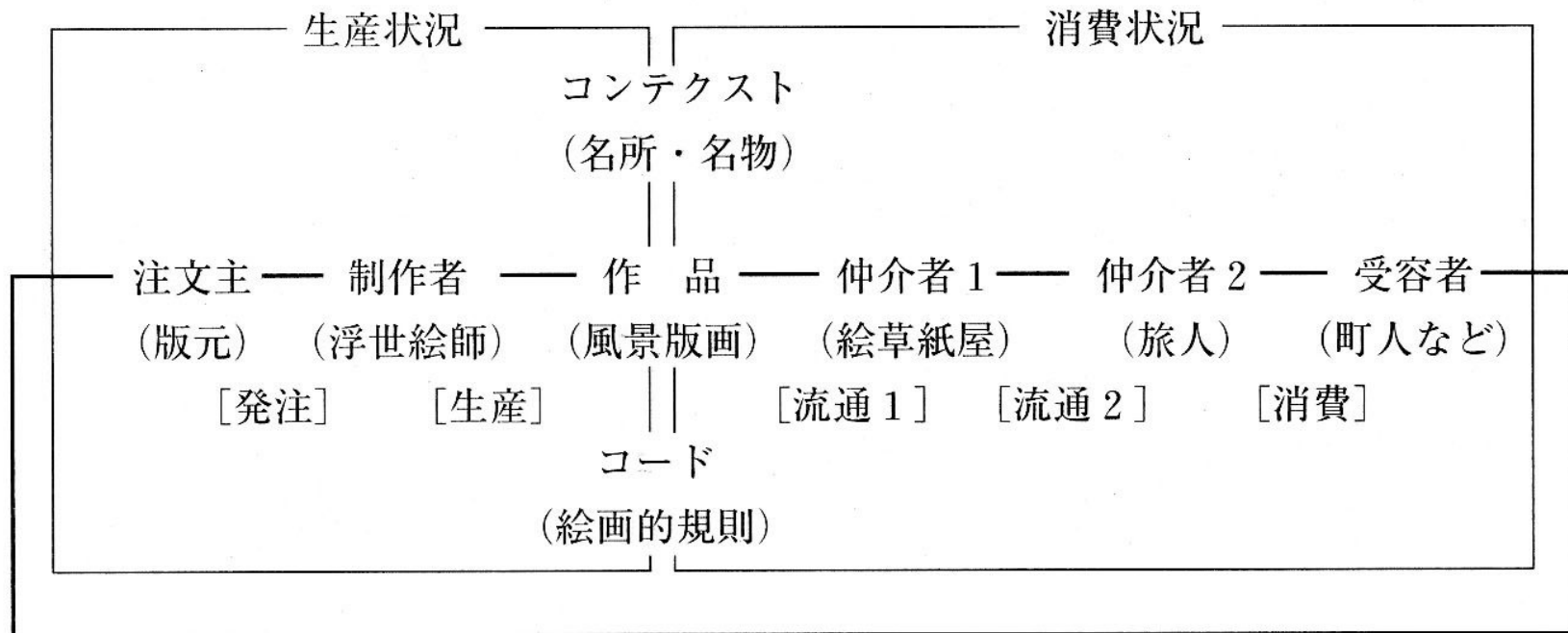
1 芸術とコミュニケーション

芸術とコミュニケーション

- (石井 2007, p.160)
- 情報意図 = 伝えたい意図そのもの
- 伝達意図 = 何かを伝えたいという意図
- 芸術は何かを伝えたいというメッセージを発しているだけで、伝えたい中身までは明示していない、という考え。

芸術とコミュニケーション

- 送信側が信号に託したメッセージ
受信側がその信号を解読して得たメッセージ
- 一致しない
- 同じ作品がさまざまな解釈で人々に楽しめる



図表A 風景版画のコミュニケーション図式

岸文和「『風景』を描く理由」『四大(地・水・火・風)の感性論』平成13-16年度科学研究費補助金基盤A1研究成果報告書(研究代表者:岩城見一京都大学文学研究科教授)、2005年、pp.89-109、p.93

芸術とコミュニケーション

- 無駄、すれ違い、皮肉、ほのめかし
- ゆとりあるコミュニケーション

2 不確かさを減らしておく

不確かさを減らす方法

- 1) みんなが知っている内容を新しい方法で伝える。
- 2) 新しい内容を、見慣れた方法を使って伝える。
- 3) *見たこともないような新しい内容を新しい方法で伝える。(少し難しい)

1) みんなが知っている内容を新しい方法で伝える。

- 次の2枚の絵を比べてみてください。

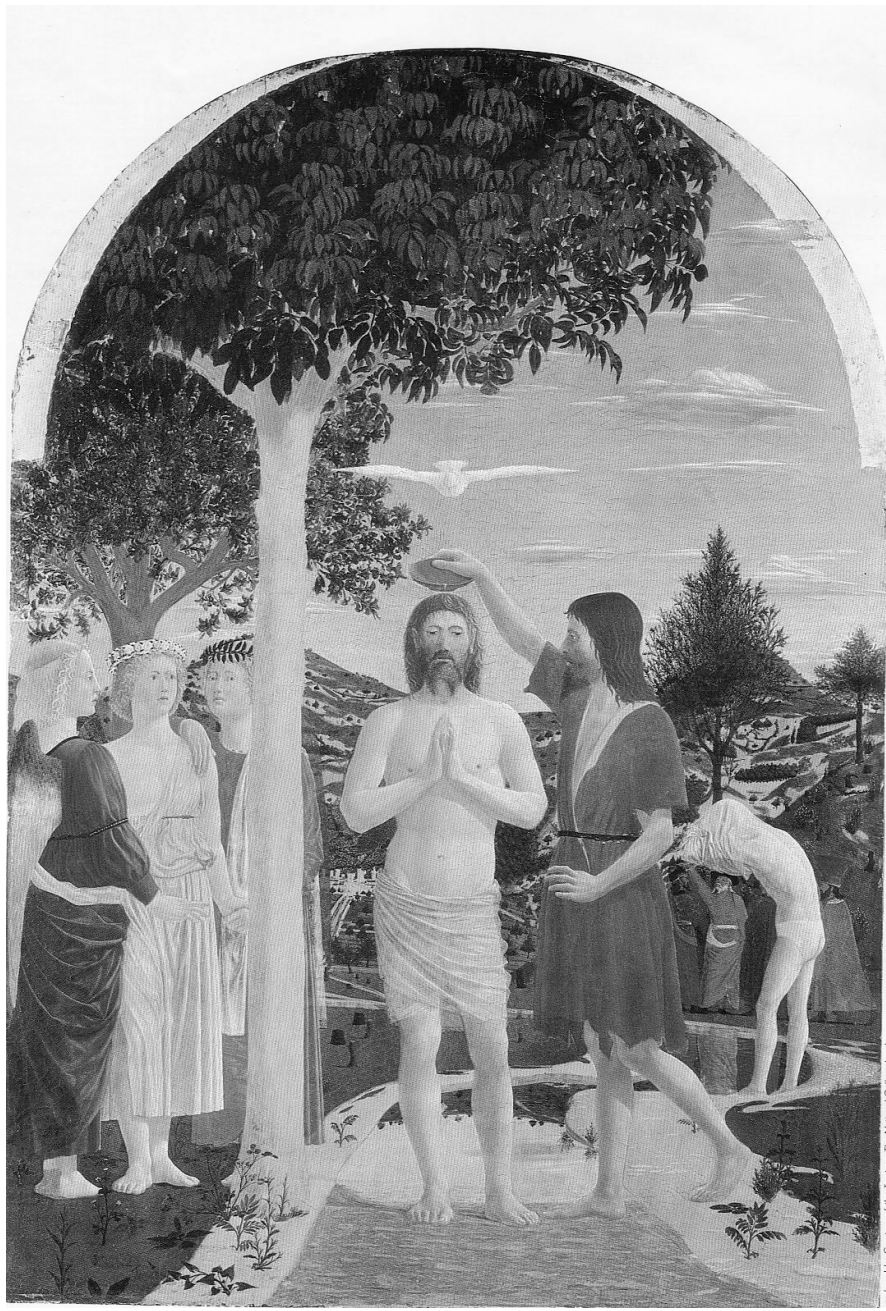


图1

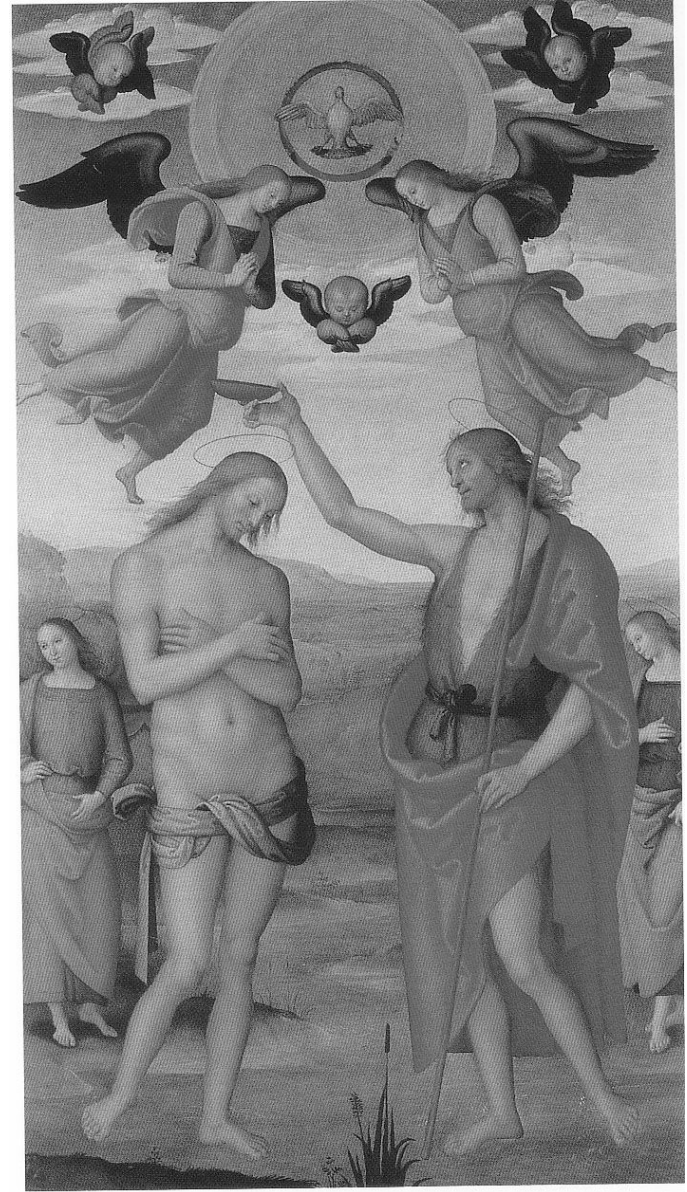


图2

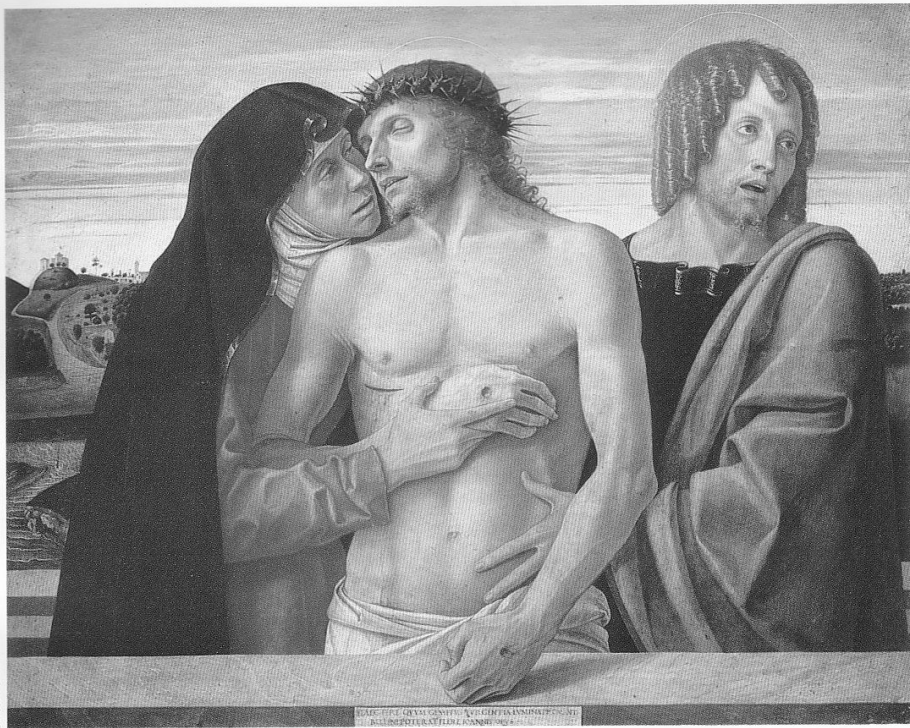


図3

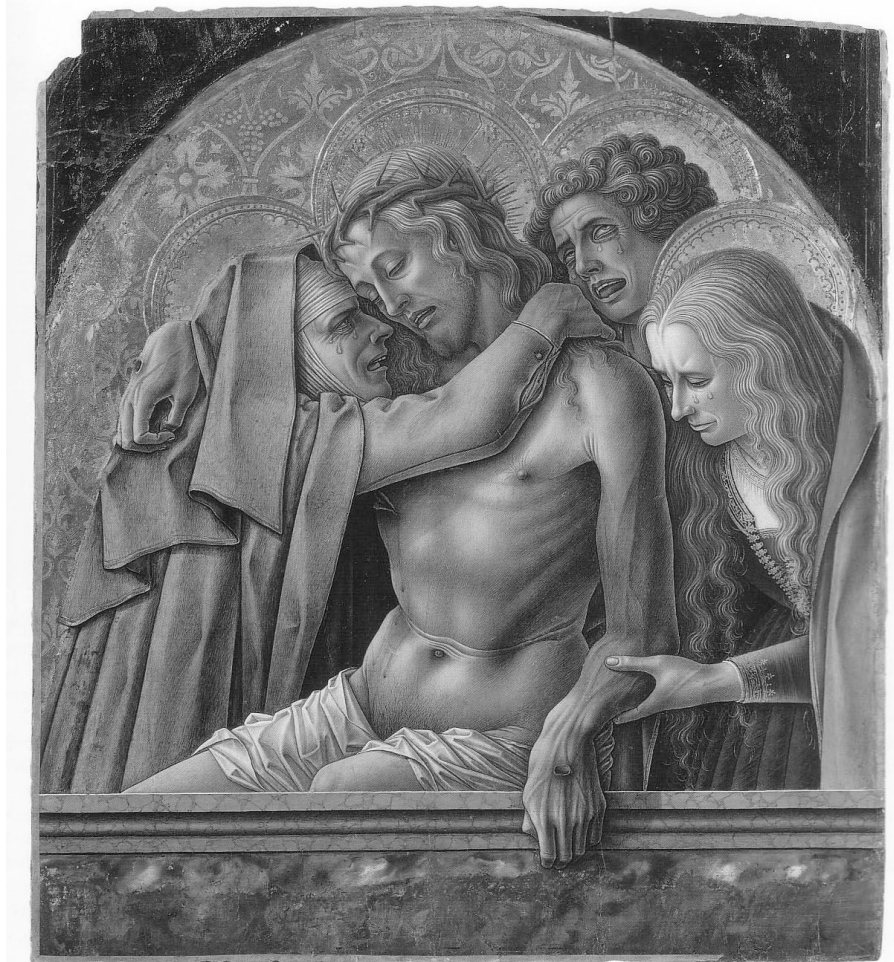


図4

では、どちらが効果的と感じますか？ 左？ それとも右？

2) 新しい内容を、見慣れた方法を使って伝える。

- 次の絵を見てください。



图5

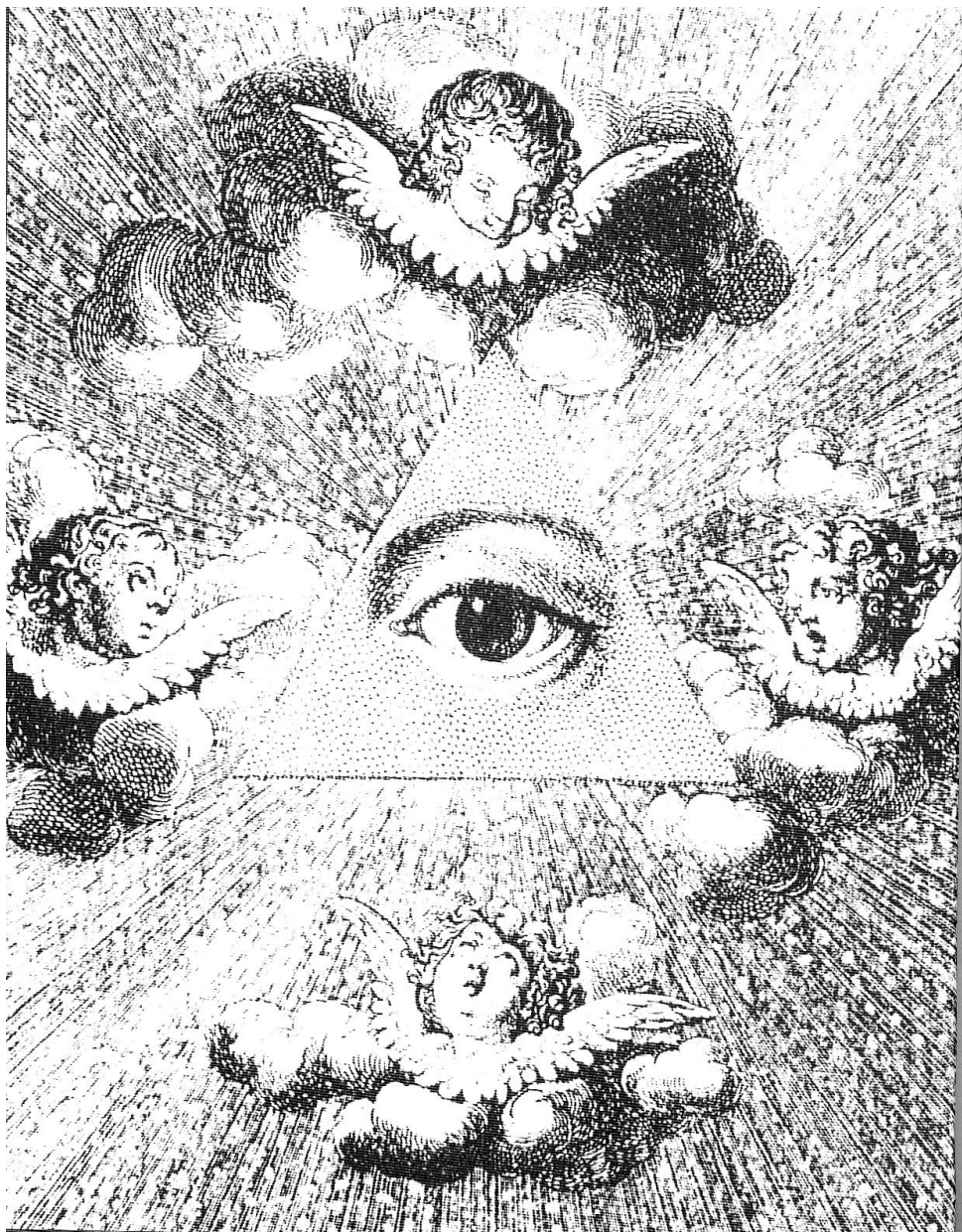
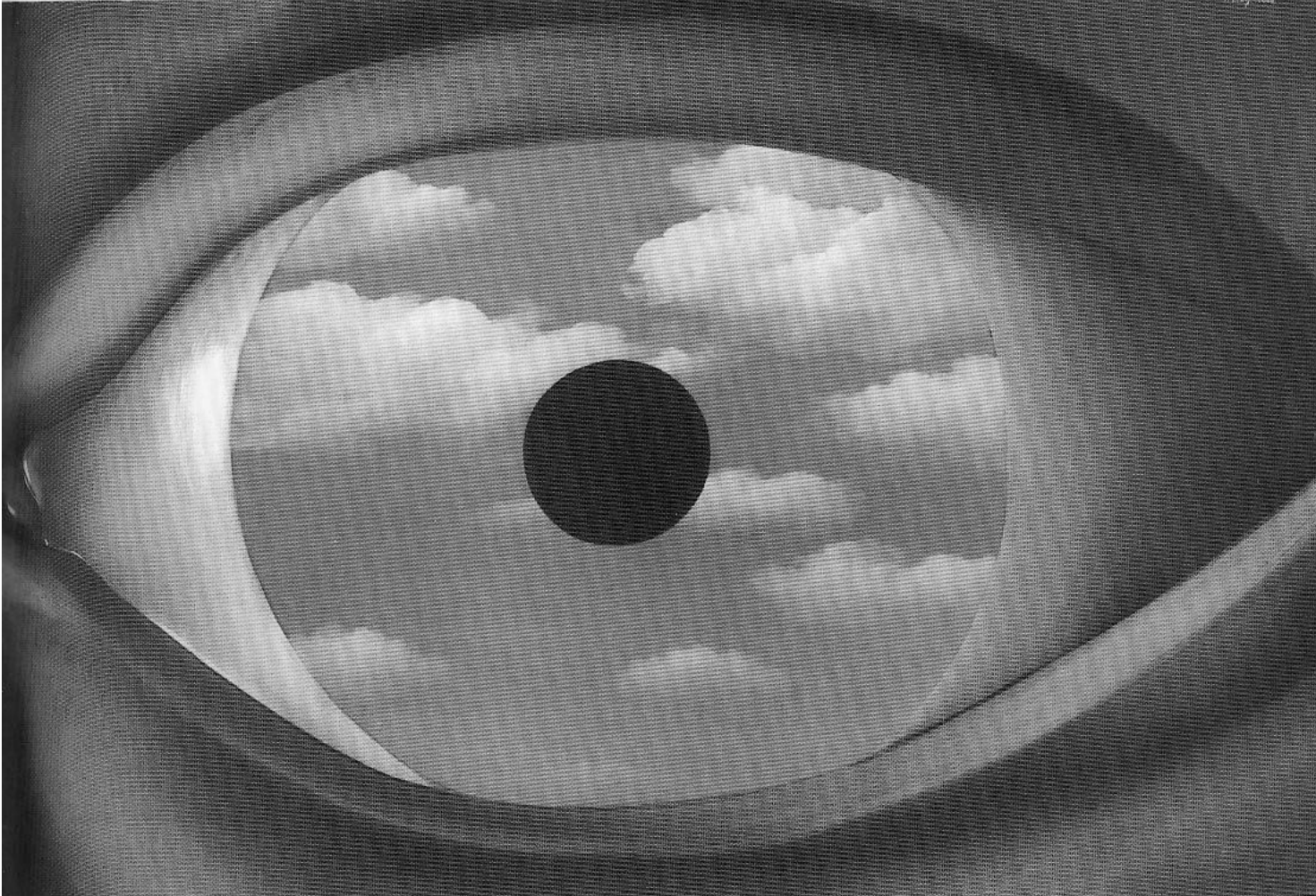


图6



图7



では、これは何でしょう？

図8

3) 見たこともないような内容を 普通と違う方法で伝える。

- 当然そこにあるはずのものを取り除く。
- 逆にそのものの意味や価値について考えさせられる、
- 余裕のあるコミュニケーションの場合

たとえば・・・

- 音楽から規則的リズムを取り除いてみたり・・・
- 賑やかに終わるはずのシンフォニーがしんみりと終わってみたり・・・

なぜ？

- その規則の重要さに気づいたり、
 - なぜそれを変更したのかを考えたり、
 - 変更の結果そのものに心を揺さぶられたりする
-
- あるジャンルの規則そのものについての知識を前提



図9

ヴィンセント・ファン・ゴッホ《1足の靴》（1887）、アムステルダム、国立美術館（ゴッホ財団）
ヴァルター他（2002）『ゴッホ 全油彩画』、TASCHEN、p.210

3 課題

- 各自の研究について、
- その対象を記述(あるいは表現etc...)する方法をできるだけわかりやすく書いてください。
- 最小限、どういう要素を用いれば、みなさんの研究対象を記述できるのか、ルールでも結構です。

- 例: 音楽→リズム、メロディ、ハーモニー
- 例: 音(記譜法)→高さ、長さ
- 例: 絵→対象(モノ、物語)、表面の構成(色、形)